

令和7(2025)年度下都賀地区初任者研修会(学習指導、児童・生徒指導)を開催しました

日 時 令和7(2025)年8月19日(火)実施
会 場 栃木市大平文化会館・栃木市大平公民館・大平勤労青少年ホーム
対 象 下都賀地区令和7年度新規採用教員

I 研修の目的・内容等

(1) 目 的

- ア 学習指導や児童・生徒指導等について基礎的な指導力の向上を図り、自信と希望をもって日々の教育活動に取り組めるようにする。
- イ 職務に専念することなど教職員としての使命を自覚し、自己啓発に努める姿勢を養う。

(2) 会 場

栃木市大平文化会館・栃木市大平公民館・大平勤労青少年ホーム

(3) 内 容

- 趣旨説明
- 講話「学業指導について～児童・生徒指導の充実～」
- 児童・生徒指導に関する研修
- 学習指導に関する研修



2 本研修で確認したこと

(1) 講話「学業指導について」

- ア 児童・生徒指導が目指すもの
 - ・ 児童・生徒指導の目標は、自己指導能力を育成することである。

↓
「その時 その場 でどのような行動が適切か、自分で考えて 決めて 実行する能力」
・ 自己指導能力の育成を図るためには、大きく 4つの働きかけが重要となる。

- ↓
- 一人一人が「自己存在感」を実感できる場を設定すること
 - 「共感的人間関係」の育成を図ること
 - 児童生徒に「自己決定」の場を用意すること
 - 「安全・安心」な風土を醸成すること

イ 未然防止、早期発見・早期対応

- ・ 問題行動等の早期発見の前段階となる「未然防止」の取組を充実させることが大切である。
- ・ 未然防止の取組は、すべての児童生徒が対象となる。

ウ 学業指導について

- ・ 未然防止の視点に立った児童・生徒指導は、学業指導と深く関わっている。
- ・ 学業指導を推進するには「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の両側面から取り組むことが求められる。
- ・ 先生方一人一人が明確な目的をもち、学業指導の充実に向けた取組を意図的、計画的に実践することが大切である。
- ・ 授業づくり、集団づくりは子どもの姿をイメージして、子どもたちと一緒に創り上げていく楽しさを感じながら行っていただきたい。
- ・ 本研修のテーマである「学習指導」と「児童・生徒指導」は、一体として捉えることが大切である。

3 本研修で学んだこと（研修者が記入した「研修の振り返り」から）

- ・トラブルの対応においては、スピード感と丁寧な対応が非常に大切だと感じました。保護者にとって、子どもに起こったトラブルやその対応が分からないことは、非常に不安であり、担任への不信感にもつながってしまうのだということを改めて実感しました。そのため、トラブルが起きてしまった際には、素早く丁寧に対応することを心がけたいと思いました。
- ・単元によってウォーミングアップの形を変えていく大切さを感じました。補強運動を活用しながら、児童一人一人に体を動かす楽しさや充実感を実感させるための指導の工夫をしていきたいです。また、他校の先生方の意見を聞く場があり、大変勉強になりました。
- ・児童一人一人の安心感を高めるために、配慮を要する児童だけでなく、どの児童にとっても安心して学べる学級づくり、分かりやすい授業づくりを行うことが大切だと改めて学ぶことができました。そのために、まずは学習や生活のルールを具体的に示し、指示や説明を簡潔にしたいと思いました。
- ・懇談会といわれると、真面目で硬いイメージでしたが、話をする前にアイスブレイクなどをして、仲を深めるところから始めると話がスムーズに進みやすい感じました。学級では、生徒同士が仲良くなるだけではなく、さらに保護者のつながりもできるとよりよい学級経営ができそうだなと思いました。
- ・国語科は他の教科に比べて児童が達成感を感じにくい分、学習したことを可視化できるような工夫が必要であると学びました。児童ができるようになったことを実感できるように見通しをもった授業を展開したり、目標を共有したりすることで、国語への関心を高めていきたいと思いました。
- ・道徳科も他の教科と同じように学習過程があり、その過程に沿って効果的な発問を投げかけることで道徳科の特質を踏まえた授業につながるということが分かりました。私自身、教材に深く入りすぎてしまい、自分事として捉える時間を十分に確保できなかったことが多々あります。教材を通して道徳的価値に触れ、そこから自分を見つめ、生き方につなげられる授業づくりをしていきたいです。
- ・これまで、教師が主導で学級活動を進めてしまっていたと感じました。児童が主体で学級活動を行うために、事前活動を行っていることや話合いの目的を明確にすることが重要だと学びました。自分たちで話し合ったことであれば、児童も課題を自分事と捉えやすくなり、事後の実践も納得して行うことができるのだと思います。また、学級活動の内容によって、学習過程が変わってくることを学びました。子どもたちが主体となって話合い活動ができるような工夫を行っていきたいです。
- ・困難さを抱えた子どもたちはどのような気持ちなのかということについて、疑似体験をもとに感じることができました。そして、子どもたちの視点に立って、どのようなことを意識して支援や工夫を行っていくことが重要なのかを考えることができました。これから子どもたちと接していく中で、どのような支援や指導がよいのかということを経験から考えて、取り組んでいきたいです。
- ・最終ゴール（目的）に対して逆算した授業計画が重要であることを再確認することができました。これまでの指導を振り返ると、ゴールまでのプロセスが目的につながっていないことがよくありました。目的を達成するための段階的指導になっているかを確認しながら授業を組み立てていきたいです。

